

小笠原自然文化研究所施設における
オガサワラカワラヒワ飼育下繁殖について
< 2025年 >

（特非）小笠原自然文化研究所鈴木 創・堀越宙・飴田洋祐・神門英夫

実施背景

- ・ 東京都の目標である「島内5ペアの繁殖」に対し、繁殖施設不足が大きな制約となっていた。
- ・ 屋外施設では
 - > 台風時の避難による繁殖中断
 - > ネズミ・シロアリ被害
 - > 鳴き声による隣接施設間の繁殖攪乱

といった課題が顕在化そのため、屋内・環境制御可能なIBO施設での繁殖試行を実施。



IBOでの飼育・繁殖体制

- ・ 繁殖試行：父島の屋内ケージに準ずるスペックの施設で、1ペアの繁殖飼育開始
- ・ 施設条件：空調・換気・除湿・自動照明
- ・ Wi-Fiカメラによる常時監視
- ・ 床材に珪砂を敷設し、人為的攪乱を最小化



2025年春繁殖の経過と結果

第1クラッチ4/4～5/17

- ・交尾・産卵（4卵）を確認
- ・雌の脚部不調（足環由来）により治療・手術を実施
- ・雄の持続発情により雌が抱卵放棄→失敗

第2クラッチ5/19～7/7

- ・産卵・孵化（4羽）
- ・雄を隔離し、竹カゴ越しの面会方式を導入
- ・1羽が20日齢で巣立ちに成功他のヒナは孵化後早期に死亡（食滞の可能性）

第3クラッチ7/7～7/18

- ・産卵は確認されたが全卵無精卵
- ・春繁殖を終了し、個別飼育へ移行



求愛給餌



育雛の様子



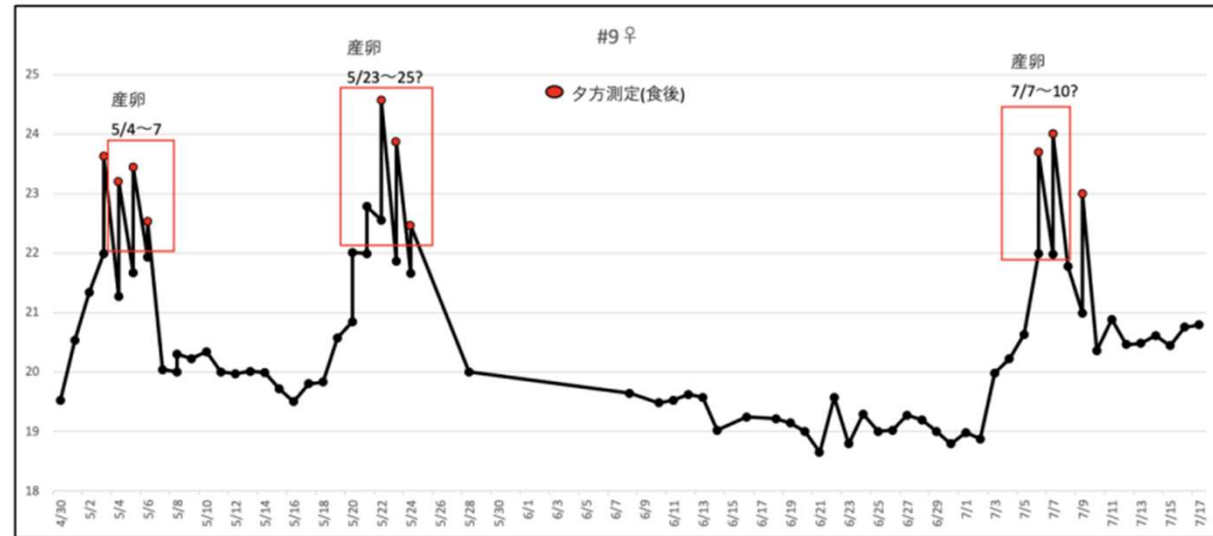
巣立ちヒナ

得られた主な知見（重要）

- ・ 自然巣形成：人工巣を使わず、藪内の低所に造巣（既存知見と異なる）
- ・ 雄の持続発情が雌の抱卵放棄を引き起こす可能性
- ・ 隔離＋面会方式はペア関係を維持しつつ繁殖成功に寄与
- ・ ペレット餌への完全移行後、ヒナの食滞は発生せず
- ・ 精子貯蔵期間は40日未満と推定



枝の中に作られた巣



産卵期の体重推移

今後に向けた検討事項

- ・ 営巣条件・環境デザインの再検討
- ・ 雌雄同居状態での繁殖試行方法
- ・ 繁殖個体の活用、性別判定、足環装着方法の改善

オガサワラカワラヒワの飼育技術開発に係る
新規IBO施設（2舎）における飼育について
（提案）

小笠原自然文化研究所（以下IBO）では、官民協働によるオガサワラカワラヒワの飼育繁殖技術開発の加速を目標に、2025年3月独自に飼育施設を建設した（IBO舎1号）。同施設では、保護増委員会臨時会合（2025年3月27日）において承認を受けた後、4月より東京都から譲り受けた1ペアによる飼育を開始した。同年6月、繁殖に成功して1羽が誕生、2026年1月現在、同施設で3羽を飼育中である。

IBOでは、前述会合（2025年3月27日）において、複数の飼育施設の設置を提案しているが、更なる新規飼育舎については、施設詳細が定まった時点で、都度、同会合へ再提案を行い、承認を得る等の方向性及び手続きが確認されていた。

IBOでは、小笠原島内で5箇所以上の繁殖可能施設の確保を目標に（現状:東京都2施設、IBO1施設の計3施設）、2025年5月より新規に2施設の設計・建設に入った。

1施設（IBO舎2号）はIBO敷地内に設置する、大神山中型ケージの2倍強の大きさで、かつ同等設備を持つ繁殖飼育舎である。2026年1月8日に基礎工事が完了し、1月24日現在、建物建設中で、同3月に完成予定である。

1施設（IBO舎3号）は外柵のある小笠原村管理地に設置するトレーラーハウスで、既設のIBO飼育舎1と等倍弱の大きさで、かつ同等設備を持つ繁殖飼育舎である。2026年1月上旬に海外工場にほぼ完成し、1月中旬に国内栃木工場へ到着した。1月27日現在、室内整備、車両手続き中で、3月中旬に父島に到着予定である。両飼育舎は、2026年春繁殖で使用可能である。

新規施設の位置

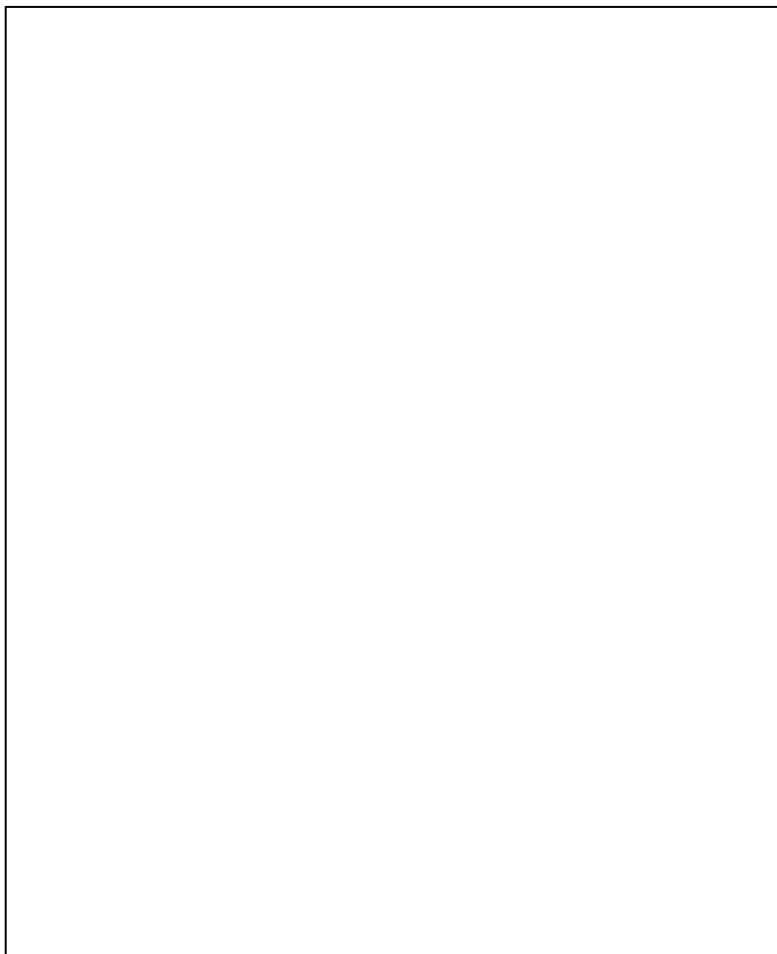


図 新規施設の位置（青矢印の先）従来施設

IBO舎02号

父島の中型ケージの約2倍の容積
父島の施設・IBO舎1号と同等のスペック



イメージ

図 飼育舎内部はIBO舎01号に準じる

IBO舎03号

図 施工の様子（2026年1月24日時点）↑

大神山中型ケージとほぼ同容量
大神山施設・IBO舎1号と同等のスペック



図. 海外工場及び、賃借済の小笠原村管理地（2026年1月8日時点）

IBO舎02号

施設条件

- ・ 建屋 幅2.8m 奥行 4.9m 高2.5~2.9m
- ・ 飼育スペース
床面積: 約11m² 高さ: 約2.7m 容積: 約30m³
+IBO舎1号比 + 210%, + 108%, + 256%
+大神山中型比 + 200%, + 94%, + 212%
- ・ 人の制御 可能 / IBO施設内
- ・ 躯体強度・安全性
密閉家屋 2 × 4
→ 台風◎
→ ネズミ侵入防止◎
→ シロアリ◎
- ・ セカンドキャッチ (逃走防止二重構造)
飼育作業可能な1.5人分のスペース
- ・ ガラス窓 (外側雨戸/内側二重トリカル)
通気交換可能
ヒサシ取り付け済
- ・ 施設内環境 (ハード)
空調完備 (エアコン・強力換気扇)
空気清浄機能付き除湿機
温湿度モニター
照明 (タイマーで日長設定可能)

飼育環境の整備状況

- ・ 監視設備
Wi-Fiカメラ3~4台を設置
(IBO本部からの遠隔監視可能)
 - ・ 継続・繁殖飼育のための環境材設置
環境木・枝の設置
水場の設置
巣の設置
巣材の設置
- 床面: 砂 (珪砂) の敷き積み
繁殖期終了まで人は立ち入らない
- ・ 安全対策
基本的に、空調、凸機器、コンセント等は
前室 (セカンドキャッチ側) に設置



安全対策を施した照明



営巣モニター

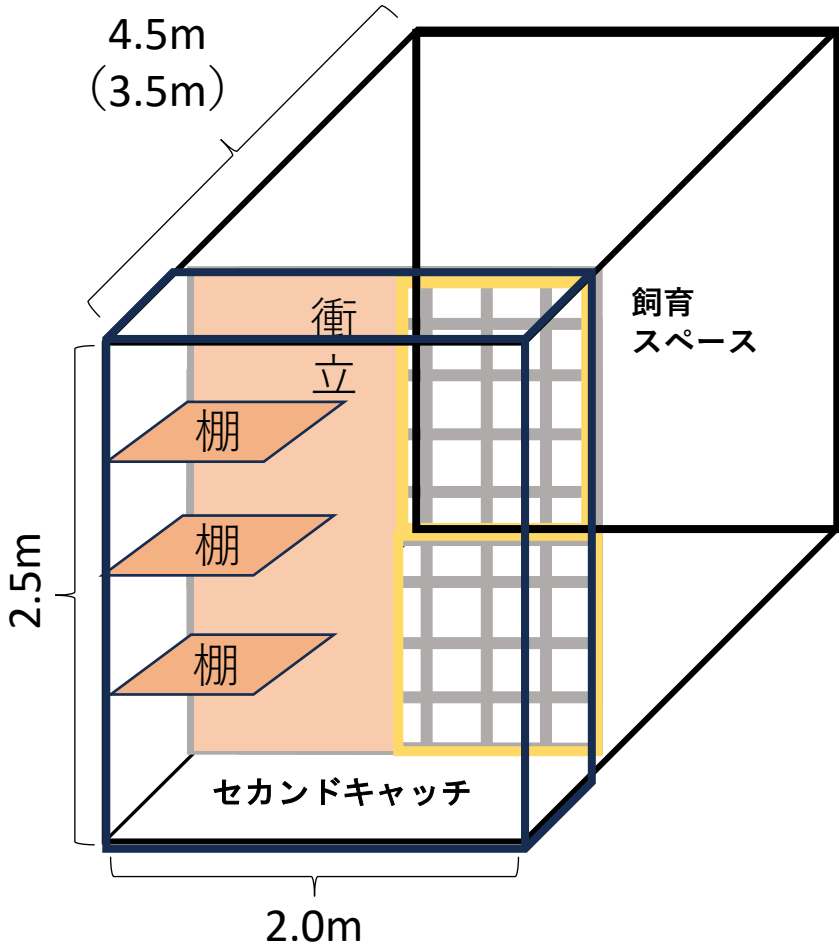


除湿兼空気清浄機

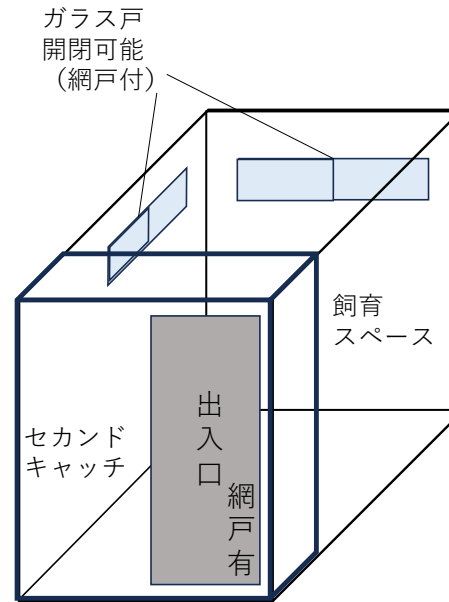


NETATMO

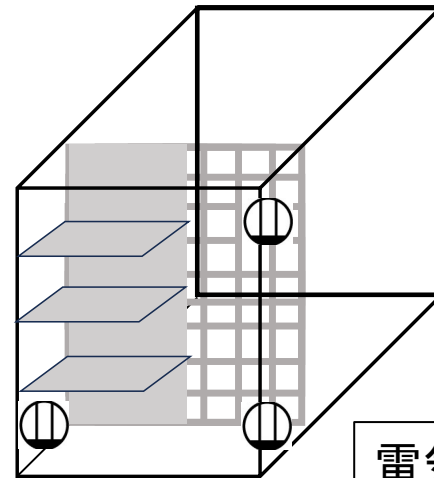
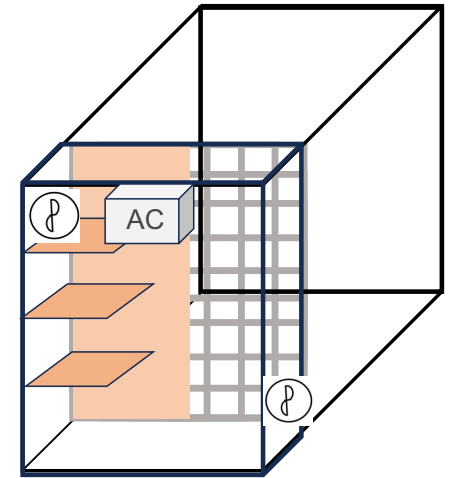
IBO飼育舎2号 間取り等



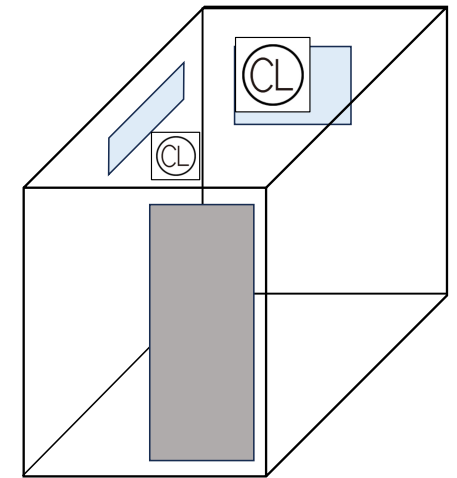
飼育スペースとセカンドキャッチ



出入口と窓ガラス



電気系



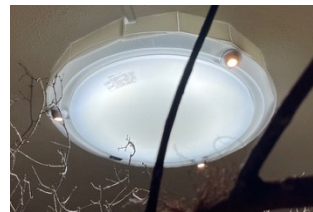
施設条件

IBO舎03号

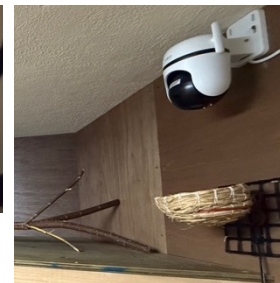
飼育環境の整備状況

- ・ 建屋 幅1.9m 奥行 2.8m 高2.5m
* 特注トレーハウス
- ・ 飼育スペース
床面積: 約5.3m² 高さ: 約2.5m 容積: 約13.3m³
+IBO舎1号比 + 104%, + 90%, + 87%
+大神山中型比 + 99%, + 78%, + 72%
- ・ 人の制御 可能 / 外柵のある村の管理地 (貸借)
- ・ 躯体強度・安全性
密閉家屋 トレーラーハウス
→ 台風○
→ ネズミ侵入防止◎
→ シロアリ◎
特殊塗料 (耐光性塗料 特注)
- ・ セカンドキャッチ (逃走防止二重構造)
飼育作業可能な1.0人分のスペース
- ・ ガラス窓 (外側雨戸/内側二重トリカル)
通気交換可能
- ・ 施設内環境 (ハード)
空調完備 (エアコン・強力換気扇)
空気清浄機能付き除湿機
温湿度モニター
照明 (タイマーで日長設定可能)

- ・ 監視設備
自動撮影カメラ3~4台を設置
(Wi-Fi設置によるIBO本部からの遠隔監視検討中)
- ・ 繁殖飼育のための環境材設置
環境木・枝の設置
水場の設置
巣の設置
巣材の設置
床面: 砂 (珪砂) の敷き積み
繁殖期終了まで人は立ち入らない
- ・ 継続飼育で使用する場合は柵を配置
→ 竹カゴ飼育
- ・ 安全対策
空調、凸機器等のトリカルネット等で囲い済
端部埋め込み済
コンセントの目張り
入り込みスペースつぶし
照明と天井、クーラーと天井間等



安全対策を施した照明



営巣モニター



除湿兼空気清浄機



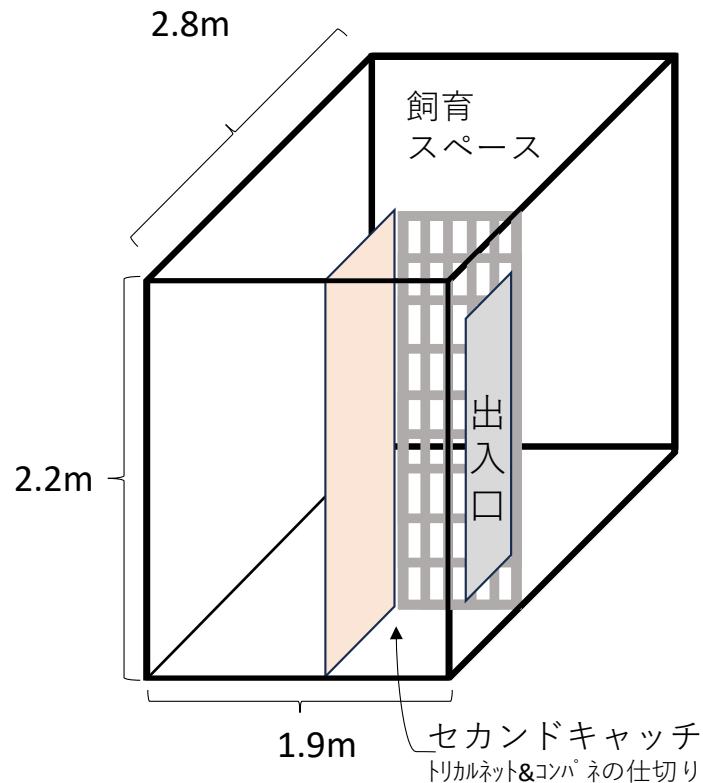
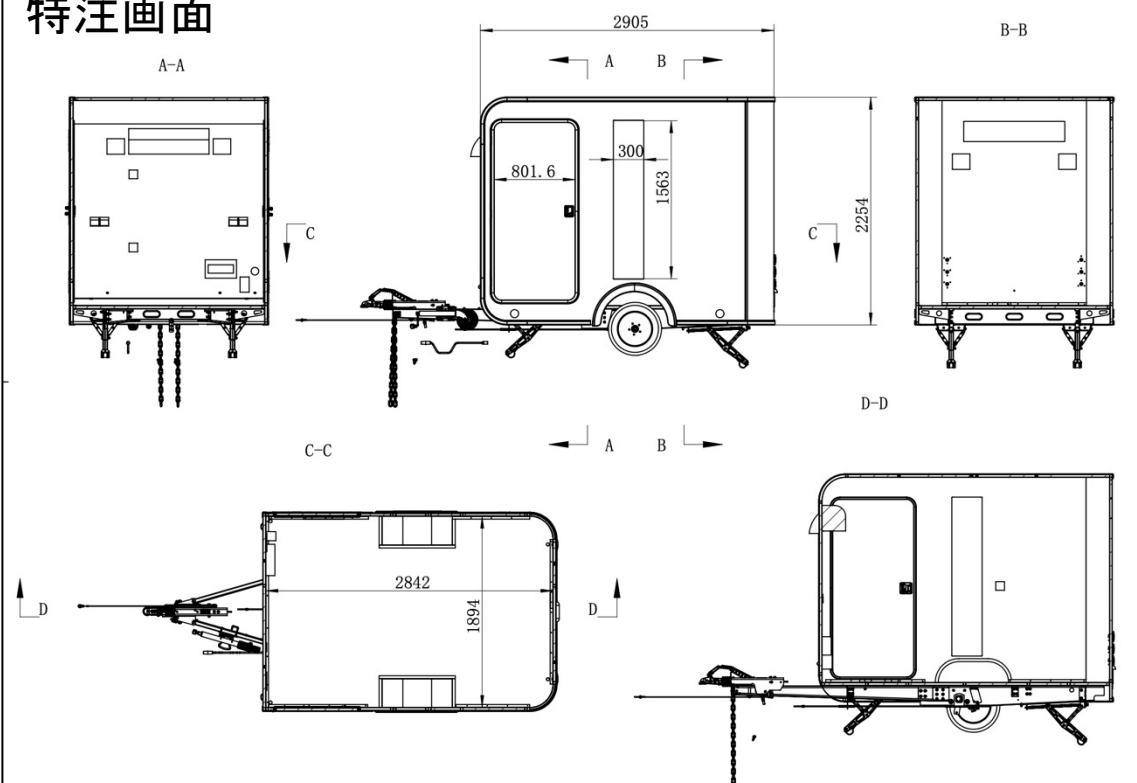
NETATMO

IBO飼育舎3号 間取り等

2026年1月17日海外工場発
1月26日栃木工場着
エアコン取り付け
車検等手続き等
2月末～3月初 父島着



特注画面



飼育繁殖の場合は、セカンドキャッチ以外のスペース全体に珪砂を敷き詰め飼育スペースとして使用する

継続飼育の場合には、飼育スペースに棚又は机を配置して、その上で竹カゴ飼育を実施する

セカンドキャッチはIBO飼育舎1号に倣うが、作業性、安全性から容積は調整する